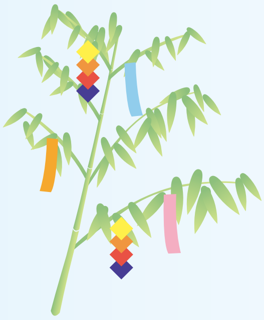
済生会は医療連携を通して、地域の診療所と共に皆様の健康をリレーします。

Baton

地域医療連携室だより

夏号
vol.69
平成26年7月1日発行

「七夕時期の天の川　裏磐梯にて」



TOPICS

P2【特集】
新潟市における
在宅医療連携拠点の整備と
取り組みについて

P4 登録医紹介（寺久保耳鼻咽喉科医院・山口クリニック）

P6 職場探訪（日清医療食品・理美容室）

P7 臨床検討会・特別例会 開催報告
第14回肝臓病教室のお知らせ

P8 インフォメーション

地域医療支援病院　臨床研修病院　地域がん診療連携拠点病院
済生会新潟第二病院・地域医療連携室
新潟市西区寺地280−7　TEL 025−233−6182　FAX 025−231−5763
http://www.ngt.saiseikai.or.jp

特 集

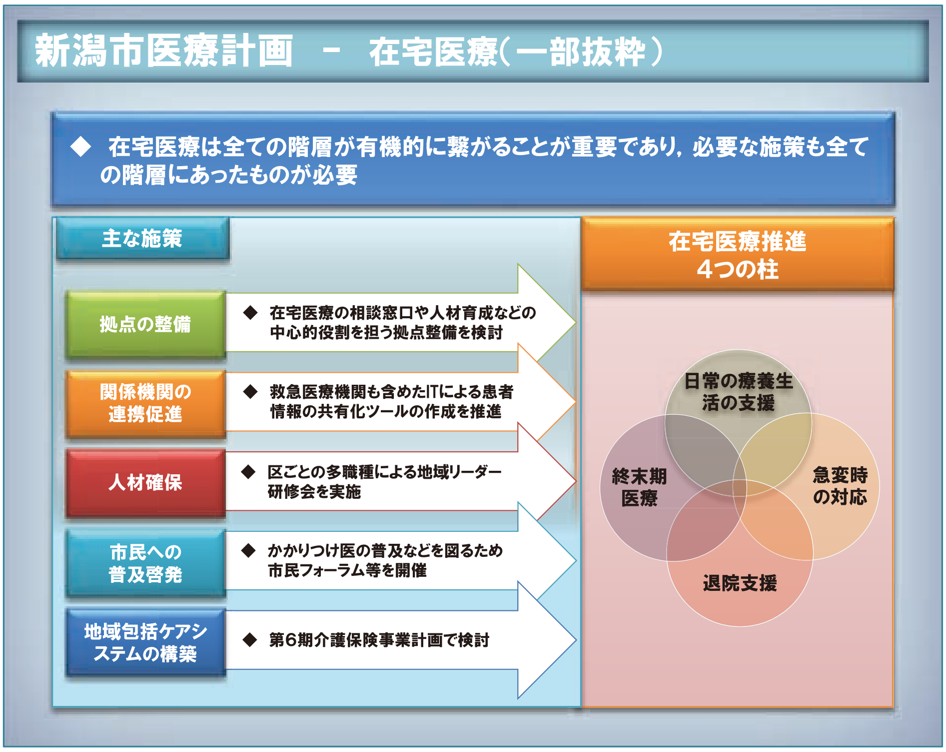
新潟市における在宅医療連携拠点の整備と取り組みについて

この度、当院は新潟県在宅医療連携モデル事業（５地区）において、その１地区である新潟市のモデル事業の１事業所に選出されました。このことについて、新潟市医療計画、ならびに在宅医療連携拠点のポイントを、新潟市保健所保健管理課地域医療推進室から投稿いただきました。

新潟市は全国の大都市と同等以上のペースで高齢化が進むことが推測され、いわゆる2025年問題に直面することになります。

2025年団塊の世代が75歳を迎える社会において、入院入所に対する需要が供給を大きく上回る事が推計されており、「在宅医療・介護を中心とした地域包括ケアシステムの構築」が必要とされています。

そのような社会情勢の変化に対応し、市民や利用者が住み慣れた環境で生活し、自らの最期を選択することができるよう、地域包括ケアシステムの中でも「在宅医療」を推進していくことは重要であり、新潟市では「新潟市医療計画」を策定し、在宅医療体制も含めた独自の医療連携体制の構築を進めています。



この計画に基づき、日常の療養生活の支援から急変時の対応、円滑な退院支援に対し、切れ目ない医療提供を行う在宅医療体制を構築していくため、現在、新潟市において都道府県に設置されている地域医療再生基金のうち「新潟県在宅医療連携モデル事業補助金」を活用し、在宅医療の相談窓口や人材育成など、中心的な役割を担う**拠点の整備**を検討しています。

「新潟県在宅医療連携モデル事業」について

新潟市を含めた県内５か所が採択を受け、新潟市では、新潟市医師会・済生会新潟第二病院・斎藤内科クリニック（中央区高志）の三者連名による申請により採択を受けている。

拠点整備の検討にあたっては「在宅医療ＩＴ連携事業」「在宅医療連携拠点事業」の二本柱で実施することとしている。

在宅医療連携拠点について

1．整備方針

H26～H27の2年間、市内２か所でモデル事業を実施します。実施において、人口81万人である新潟市には複数の地域性が混在し統一的な取り組みが困難であり、地域の特性や特色に合わせた拠点を整備する必要があるため、**「地方型」「都市型」に分けて実施します。**
（複数の地域性とは、例えば人口数、高齢化率の推移、10万人対高齢者数、診療所数、中核となる病院の有無）

地方型では病院連携室（済生会新潟第二病院　地域医療連携室）を中心とした拠点の整備、都市型では診療所ネットワーク構築のノウハウを持った診療所（中央区：斎藤内科クリニック）を中心とした拠点の整備を行います。

また、有識者、医療・福祉関係者等から構成する「ＩＴ連携運営委員会」と「連携拠点整備運営委員会」を複数開催し、モデル事業における拠点業務や拠点と関係機関を結ぶＩＴネットワークの構築、また、平成27年度以降の新たな拠点の検討、拠点を区単位あるいは日常生活圏域単位の整備・実施について検討します。

2．拠点が行う事業のイメージ （厚生労働省「在宅医療・介護あんしん2012」より抜粋）

1）多職種連携の課題に対する解決策の抽出
2）在宅医療従事者の負担軽減の支援
3）効率的な医療提供のための多職種連携
4）在宅医療に関する地域住民への普及啓発
5）在宅医療に従事する人材育成

3．モデル実施について

手法：「都市型」「地方型」に分けて運用

地方型（済生会新潟第二病院）

［趣旨］
病院を中心とした連携拠点の整備
［特徴１］
病院連携室を中心としたネットワークの形成が多い
［特徴２］
診療所間ネットワークの形成が多い
［特徴３］
①地域（市民等）が充実
②サービス利用のタイミングが遅くなる傾向にある。
①②より，病院入院が多くなる。

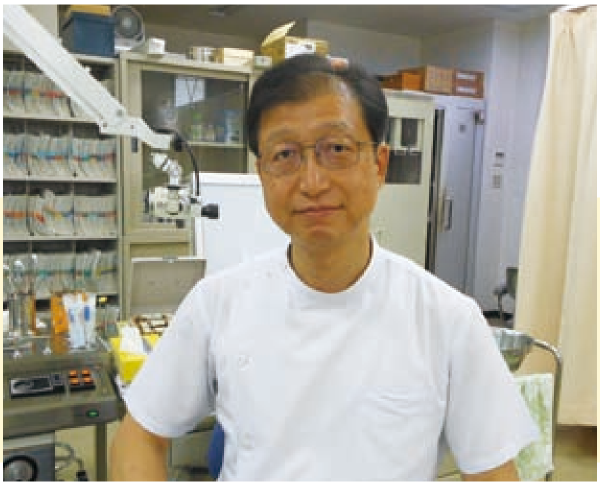
都市型（斎藤内科クリニック）

［趣旨］
診療所を中心とした連携拠点の整備
［特徴１］
訪問看護，介護事業所を中心としたネットワークの形成が多い
［特徴２］
機能が特化した病院，診療所が多い
［特徴３］
①地域繋がりが希薄
②サービス利用のタイミングが速くなる傾向にある。
①②より，居宅サービスが多くなる。

まとめ

今後も、病気等を抱えても住み慣れた環境で安心して暮らし続けたいという多くのみなさまの希望を叶えるために、地域全体で住民お一人おひとりの「生活を支える医療」の提供体制を図ってまいります。

新潟市保健所保健管理課地域医療推進室



オープンシステム

寺久保耳鼻咽喉科医院

耳鼻咽喉科・アレルギー科

寺久保（てらくぼ）　洋次（ようじ） 先生

専門領域

耳鼻咽喉科専門医・補聴器相談医

医師・医院PR

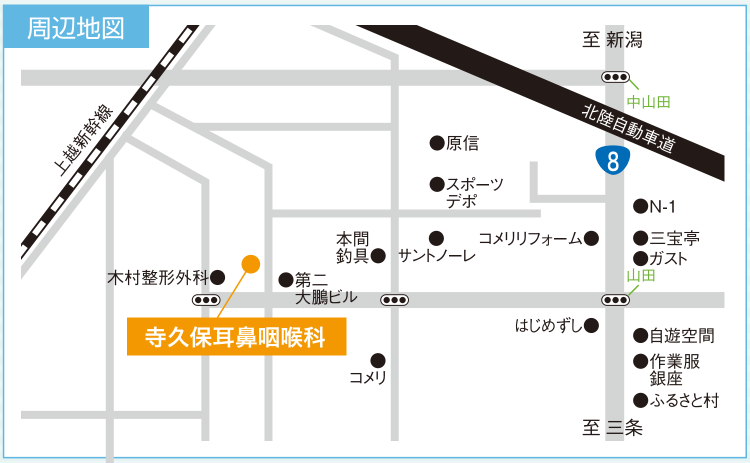
　済生会新潟病院・済生会新潟第二病院勤務後、平成7年に開業し、今年で19年になりました。耳鼻咽喉科一般の診療を行っていますが、その中でも感染症・アレルギー性鼻炎はもちろん、声の異常・喉頭の異常には特に力を入れて診療してきました。また、耳鼻咽喉科の診療をこわがる子供さんの対応にも力を注いできました。騒いでいた子供さんがだんだんと協力的になっていくのをみると実に楽しくなります。

　あわただしい外来ではありますが、分かりやすい説明とていねいな治療をこころがけております。これからも地域の皆様に役立てるよう、耳鼻咽喉科診療を継続していきますのでよろしくお願いいたします。

寺久保耳鼻咽喉科医院
耳鼻咽喉科・アレルギー科
〒950-1101
新潟市西区山田503−1
☎025−377−1187

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00〜12:00	○	○	○	○※	○	○
15:00〜18:00 (土曜日は13:00〜15:00)	○	○	○	×	○	○

◎休診日／第１・第３木曜午後、日曜祝祭日
※第2・4木曜日(休診)



登録医訪問

山口クリニック
内科・消化器科

山口（やまぐち）　正康（まさやす） 先生

専門領域

消化器科

医師・医院PR

　当クリニックは、高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病の診療を中心に、胃がん、大腸がんなど、がんの早期発見を目指し、内視鏡検査での検診を積極的に行っています。胃内視鏡も経鼻内視鏡を用い、患者さんに苦痛のない検査を取り入れ、患者さんから好評を得ています。

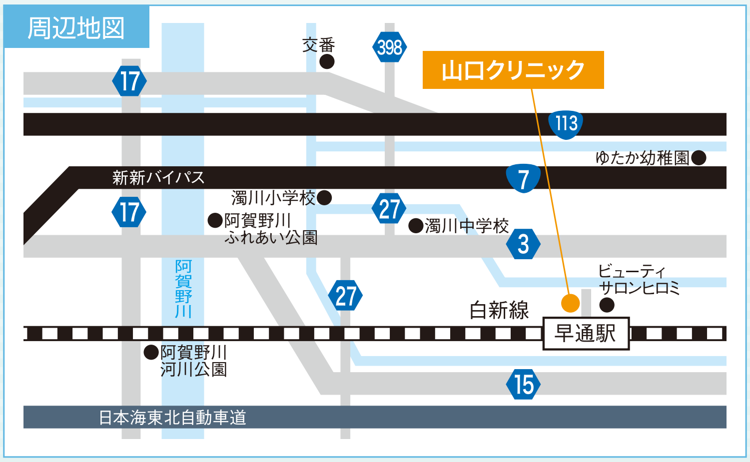
　地域に根付いた医療を心がけ、病診連携はもとより、介護職との連携も大切にし、患者さんが在宅でも生き生きと生活できるように、在宅医療にも積極的に取り組んでいます。

　待合室では時おり映写会や健康教室も開かれ、いつ来ても、どんな時でも、患者さんが話しやすく、親しみやすい、地域に開かれたクリニックでありたいと願っています。

山口クリニック
内科･消化器科
〒950-3376
新潟市北区早通北1−3−11
☎025−386−1131

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00～12:00 (※土曜日は9:00～12:30)	○	○	○	○	○	○※
15:00～18:00	○	○	○	×	○	×

◎休診日／木・土曜午後、日曜祝祭日



当院の部署を

職場探訪

紹介します！

職場探訪は、院内報MINDに毎月掲載しているコーナーです。地域のみなさんにも紹介させていただきます。

日清医療食品

日清医療食品は給食の委託会社として栄養科で業務をさせて頂いております。現在栄養士2名、調理師7名、洗浄員16名の合計25名で勤務しており、10代の新人から勤続20年越えのベテランまで一緒に働いています。

業務内容は主に朝食調理、食材の下処理、各食の配膳・下膳、食器洗浄です。

朝食は5時半から作り始めます。各自役割が決まっており、ご飯やおかゆを炊いて盛り付けをする担当や、きざみやミキサー食を作る特食調理の担当など、分担して業務にあたります。朝食提供後は大量に納品された野菜の切菜作業を行います。

洗浄室では、6時から20時まで3交代制にて各食の食器洗浄をしています。1食で約250〜300食の提供となるため手洗いでは追いつきません。ベルトコンベア式の洗浄機で洗うので蒸気により室内が30℃近くまであがり、汗を流しながらの作業となります。食器洗浄以外にも病棟への配膳車の上げ下げや、B棟のティーサーバーも管理しています。

私たちは直接患者さんの食べる姿を拝見することは難しいですが、"おいしかった!" "いつもありがとう" などのあたたかいコメントの書かれた食札を頂くと非常に嬉しく、また、今後の励みとなります。厳しいお言葉を頂くこともありますが、そのような時は必ず原因究明と今後の改善方法を話し合い、同じことを繰り返さないよう努力しています。よりよい病院給食のために基本を怠らず、安心・安全の食事提供に努めてまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。

（日清医療食品(株)　山本　渚）

理美容室

済生会新潟第二病院とともに20数年理美容室の営業活動をしてまいりました。常に職員の皆さん、入院患者さん、一般外来に通院の患者さん、多くの皆様に愛され心が癒されるようなサロンを目指し日々努力しております。

理容ヤングは調髪後、若いヤングに変身していただきたい思いで、ビューティスマイルは明るく笑顔で接客に勤めると言う意味でサロンネームを付けました。

理美容室の仕事の内容は調髪・ヘアカラー・お顔剃り・シャンプー・ヘアマニキュア・パーマ・病室出張等技術と、その他医療用ウィッグ・おしゃれ用ウィッグも取り扱っております。特に医療用ウィッグは抗がん剤治療による脱毛の相談、抜け毛の悩み、治療前の準備、ウィッグの選び方等々の相談を受け、お店でもウィッグを試着することもできます。

これからはハンドエステも増やしてゆきたいと思っているところです。病院での生活の中で少しでもスタイリッシュなヘアースタイルや精神的にリフレッシュできるメニューと技術を提供できるよう、これからもより一層の努力をして参る所存です。

済生会新潟第二病院は地域拠点病院として、又、医療の最前線で活躍されている病院であり、その中で理美容室の仕事に携わることができることは、とても光栄です。これからも一層皆様の御期待に沿えますようにスタッフ一同努力し、皆様の御来店をお待ち申し上げております。

（理美容室オーナー　鈴木熙代）

臨床検討会・特別例会
開催報告

▲ 南野 徹 教授

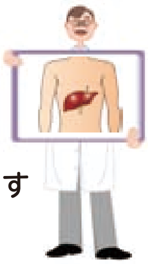
当院では毎月病診連携活動の一環として臨床検討会を開催しており、普段の検討会では院内各科の先生方から、連携して頂いている関係施設の先生方に有用と思われる臨床知見や最新情報などを講演会形式で提供しています。その中で例年5月は特別例会として、外部から講師をお招きして講演をお願いしていますが、本年は新潟大学大学院医歯学総合研究科 循環器内科学教授の南野徹先生から「老化と再生」と題してお話をいただきました。講演はまず御専門とされる循環器の高血圧の話題から始まり、その時々の最先端の研究知見を反映して高血圧の基準が変わっていくこと。それに伴う治療薬選択の変遷などをお話しされました。続いて最近南野先生が精力的に研究を進められている老化の内容に移られ、一卵性双生児でも外部環境が異なることによって老化のしかたが変わってくるというお話。その老化に関係する因子として紫外線、食事、運動等の例を、最新の文献的考察も交えてお話して頂きました。その他にも盛りだくさんの内容で、最後に講演の数日前に全国紙に掲載されて非常に注目された血管の老化と糖尿病の話題にも触れ、今まで観念的に捉えられていた血管の劣化・老化と糖尿病進行の関係を科学的根拠を示して強調されていました。講演全体を通して、話の内容をそのまま患者さんにお話ししてもしっかりと理解してもらえるような平易な言葉で非常にわかりやすくお話しされ、熱心に聞いていた研修医には、内容もさることながら表現の仕方も含めた勉強になったことと思われます。老化という課題に対して、飽食や運動不足といった自らの生活習慣を見直さなければならないと気づかされた講演でした。

（副院長 多賀紀一郎）

第14回 肝臓病教室のお知らせ

参加無料

テーマ 治せる時代になりました 肝臓がん



日 時 平成26年7月20日（日）
13:30〜16:00

場 所 済生会新潟第二病院
10階会議室

●患者さん及び家族同士の意見交換会もあります
●駐車料金は無料です

この教室は、患者さんに肝臓病について正しく理解していただくことを目的に開催いたします。病気に対する不安感を取りのぞいていただくためにもぜひご参加ください。ご家族の方もご参加いただけます。

当教室は事前のお申し込みが必要です。

お申込み・お問い合わせは、
済生会新潟第二病院 地域医療連携室 TEL:025-233-6182（直通）

新規登録医紹介

医　院　名	診療標榜科目	住　　所	登録医名
てらしま外科・内科クリニック	消化器内科・肛門外科・外科	新潟市中央区万代3-1-1 新潟日報メディアシップ3F	寺島　哲郎
さくら皮膚科医院	皮膚科	新潟市中央区万代3-1-1 新潟日報メディアシップ3F	西條　忍
ふるしまクリニック	内科・循環器内科	新潟市中央区姥ケ山5−6−20	古嶋　博司
笹出線 近江眼科 近江皮膚科	皮膚科	新潟市中央区上近江2−1−33	山本　洋子
杉村クリニック	胃腸内科・消化器内科	新潟市中央区新和1−3−29	杉村　一仁

※H26年6月25日現在、登録医総数は409人です。

臨床検討会開催のお知らせ

第191回臨床検討会

●日時● 平成26年7月22日（火）19:00～

●会場● 済生会新潟第二病院10F会議室

●担当● 外科

第192回臨床検討会

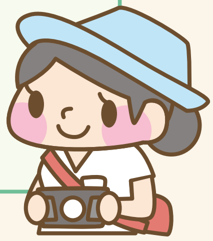
●日時● 平成26年9月30日（火）19:00～

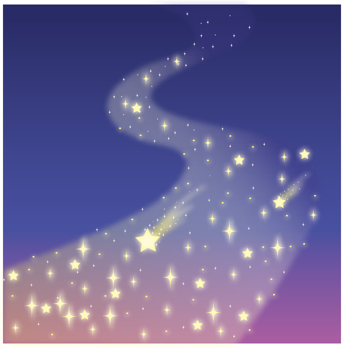
●会場● 済生会新潟第二病院10F会議室

●担当● 呼吸器内科

連携医療機関のみなさま 表紙を飾ってみませんか？

表紙を飾っていただける写真を募集しています。
四季折々のご自慢の写真はありませんか？
お問い合わせは、地域医療連携室までお願いいたします。



編集後記

今号の表紙をきしもと医院 岸本道美先生の写真で飾っていただきました。七夕といえば、笹に短冊を吊るして願い事をする五節供のひとつ。この時期はちょうど梅雨のさなかで、写真のような絶景はおろか星空さえも見えないかもしれませんが、旧暦の七夕は8月。夜空を見上げて、月遅れの織姫と彦星を探してみてはいかがでしょうか。（大澤　希美代）